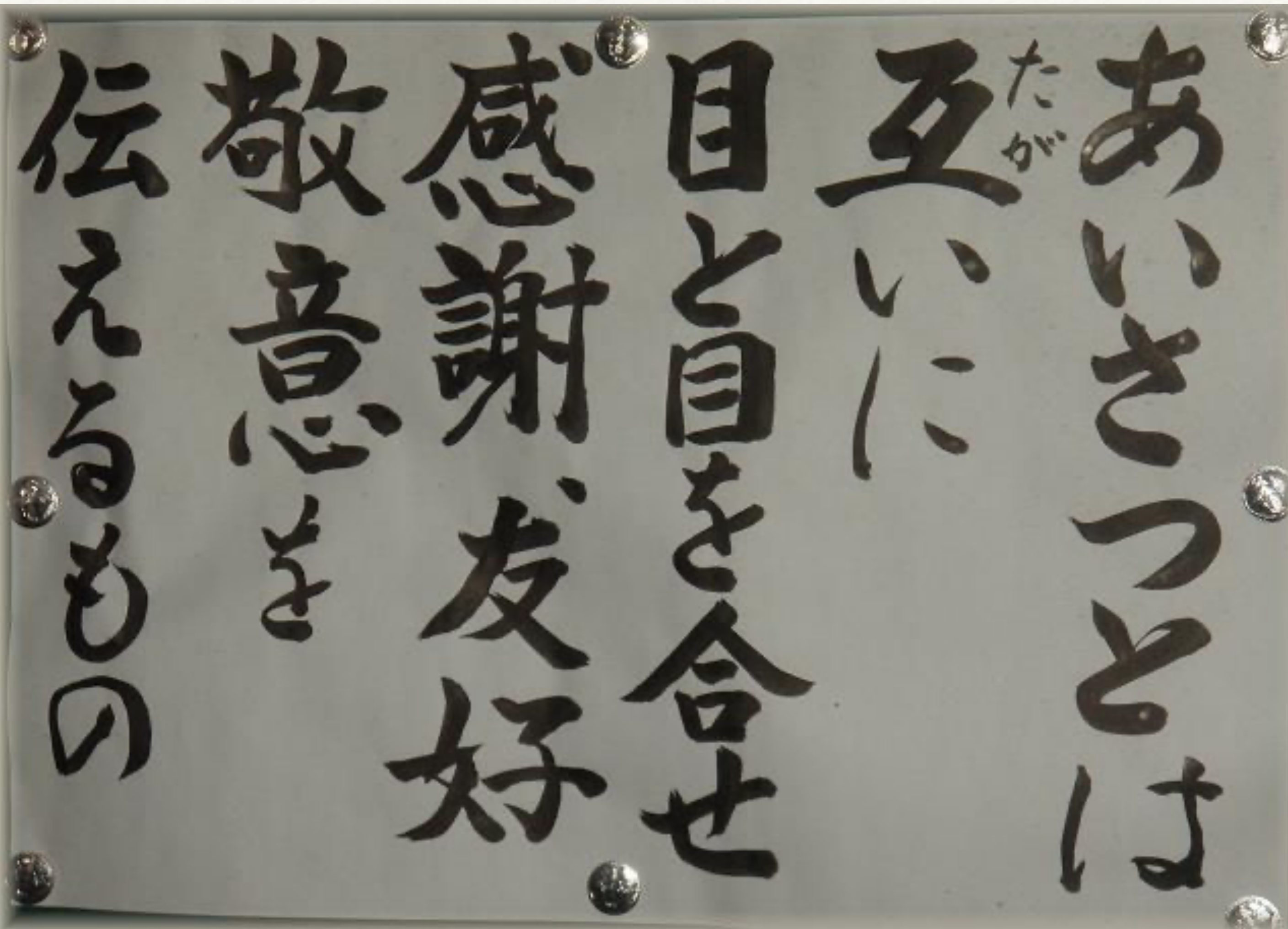


## 第十課

挨拶は心のパスポート





# 単語

とる（取る・撮る・採る・獲る・執る）

不評 → 好評

異国 → 他郷（たきょう）

ちょうど（丁度、調度）

いい度胸だ

禁物 → 油断禁物

ひょっとしたら、ひょっとすると

怠る：① しなければならないことを，なまけ心や不注意によりしないままでいる。「事件の報告を――る」「準備を――らない」 → ② 油断する。気がゆるむ。

怠ける：① すべきことをしないで無駄にすごす。「仕事を――ける」「学校を――ける」 → ② だらけている。③ 元気がなくなる。「とんだ顔つきが――けて来た」〈滑稽本・続膝栗毛〉



# 単語

甚だ → 甚だしい

挑発 → 挑む

意識的

おかす（犯す・侵す）

加える → 加わる

懐中電灯

擁する

とんだ（連体）：① 思いがけないさま。意外で大変な。主に，よくない意で用いる。「—災難だった」② ひどく道理にはずれた。あきれた。「—うそを言いやがって」③ （逆説的に）すばらしい。とてもよい。「—美人だ」



# 単語

どぎつい：人に不快感を与えるほどに強烈だ。いやらしいほどに激しい。「—・い化粧」

銘々：それぞれ。おのおの。一人一人。各自。副詞的にも用いる。「きっぷは—で持つ」

次第（名）：① 順序。「式の—」② 現在に至るまでに，物事がたどった道筋。事情。いきさつ。

「事の—を話す」「かような—で面目ない」

（連体）① 名詞に付いて，その人の意向，またはその事物の事情いかんによるという意を表す。「どうするかはあなた—だ」「とにかくこの世は金—」② 動詞の連用形に付いて，動作が行われるままにという意を表す。「成り行き—」「手当たり—に投げつける」③ 動詞の連用形または動作性の名詞に付いて，その動作に続いてすぐという意を表す。「満員になり—締め切る」「送金—現物を送る」）



# 文型

## 1.～からとって（逆接）

## 2.～にして

「～にして」の多くは「～で」「～でも」「～であって」に置き換えられる状況や場面や時を強調する表現になる。また、「Aにして、(かつ/同時に)B」の形で、「Aでもあり(かつ/同時に)Bでもある」の意味を表す。文型として重要なのは「～でさえ～できない」に相当する「～にして～(ら)れない」と、「～であってこそ～できる」に相当する「～にして、はじめて～(ら)れる」である。この二つの文型は口語でもよく使われる。なお、「幸いにして/不幸にして/一瞬にして/緊急にして」などは語彙として覚えた方がいい。

例：ローマは一日にしてならず。



# 文型

彼は政治家にして、かつ敬虔なクリスチャンでもあった。

留学中は貧しくて食事も満足に食べられなかったが、今にして思えば、ひたすら勉強に専念できた幸せな時代だった。

このような偉業は、私心のない彼にして、はじめて成し遂げることができたのだ。

不幸中の幸いとでも言いましょうか、大事故にもかかわらず、主人は幸いにして軽いけがですみました。



# 精読

1. 作者は、どのような根拠に基づいて、「（人と人との接近による摩擦を）和らげる潤滑油が挨拶だ」と述べているか、まとめてみてください。
2. 文章の内容を踏まえて、挨拶の働きをまとめてみてください。
3. 作者の観点を一つ挙げて、それに賛成するかどうか、自分の観点や理由を説明してください。